

SUPER 耐久シリーズ 2013

第7戦

オートポリス



東 徹次郎

TOHJIRO AZUMA

チーム一丸となって臨んだ最終戦！！

トップ走行も他クラスの車に当てられて戦線離脱・・・。

- ・開催サーキット：オートポリス（4.674km）
- ・チーム： TRACY with KOTA RACING
- ・マシン： TRACY SPORTS IS 350
- ・メンテナンス： TRACY SPORTS
- ・カーナンバー： #39
- ・クラス： ST-3
- ・ドライバー： A 兵頭 信一 B 佐々木 孝太 C 東 徹次郎



予選（11月9日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

今回自分としては初めてレースをするオートポリス。
コースの印象としてはアップダウンもあってコーナーのバリエーションも多く面白いコースです。

しかし、だからこそ難しく奥の深いコースでもあります。

予選はCドライバーなので自分のタイムは決勝順位には影響しません。
そのため、決勝を想定して燃料をしっかりと積み込み、タイヤもけっこう距離を走っているUSEDタイヤでいきました。

朝のフリー走行から若干のセットの変更をしていたのですが、自分的には乗りやすい印象でした。

しかしながら、燃料を積んでいることが効いているのとタイヤもかなり古い物しかなかったので、予想以上にブレーキングが止まりません。

フロントの応答性、リアのスライド量などコントロール性は良いものの、タイム的には自分でももう少し欲しいなという印象の予選となってしまいました。

しかしながら、前日の練習でもそうでしたが状態の良いタイヤを履けばポンとタイムは上がっていたので、あえてセットを変えずドライならこのまま決勝にいても良いのではないかなと思えるバランスにはなっていました。

A ドライバー予選タイム：2'02.049 総合 18 位（クラス 7 位）

B ドライバー予選タイム：2'00.535 総合 11 位（クラス 1 位）

A・B 合算タイム：クラス 5 位

C ドライバー予選タイム：2'03.645 総合 10 位（クラス 4 位）



決勝（11月10日）

◆Weather：雨 ◆Course：ウェット

決勝の日曜日は前日までと打って変わって朝から雨&濃霧です。本当に霧が濃く午前中のフリー走行は中止となり、決勝のスタートも遅れていきました。結局決まったのが、1時間短縮して14時からセーフティーカーによる先導の下スタート。

セーフティーカーも最初5ラップはもし霧が晴れたとしても先導すると言っていたのと、燃費的にも満タンスタートでゴールまでもつ計算ですので、作戦は1周目と2周目に立て続けにピットインしてドライバー交代の義務を済ませ、残りをその一人に任せようというものでした。

なぜなら霧がひどければ最後までセーフティーカーの確率もありますし、そうなるなら最初にピットインすることが一番ロスを少なく出来るからです。

うちは佐々木選手、そして自分、最後また佐々木選手という作戦になりました。

今回の場合、ポジションを上げるにはピットでのドライバー交代のスピードが勝負の分かれ目となります。

その為、同じドライバーで行った方が効率も良いだろうということで兵頭選手は乗らないで自分たちに託してくれました。

この2回のピットストップが正に勝負を左右するので、いつもとは違ったプレッシャを感じていました。

グリッドについての時点でも濃霧・・・。

セーフティーカースタートとはいえ、視界が悪く非常に危険なコンディションでした。

14時、セーフティーカーの先導のままレースがスタートします。

そして1周目、ほぼ全車一斉にピットへ。

そう、当然作戦はほぼ全チーム同じでピットインに賭けてきています。

うちの39号車も入ってきて佐々木選手が降り、自分が乗り込みます。

このとき、自分も焦りが出てしまいました・・・。

練習のときよりシートが下がっていなかったので腰のベルトをはめるのに手間取ってしまったのです・・・。

そしてこういうときに限ってエンジンのかかりも鈍いのですよね・・・・。

しかしながらポジションはおそらくキープのままコースへ。

すぐ隊列に追いつき、ピットアウトしたその周に再び佐々木選手へと交代する

べくピットへ駆け込みます。

ここは自分もスムーズに降り、佐々木選手への交代も非常にうまく行って何と前の 38 号車もピットで抜いて計算上のトップへ。

大きく優勝を手繰り寄せた瞬間でした。

ここまでは完璧に作戦通りでしたが、この後まさかの展開に・・・。
一瞬霧が薄くなったのでセーフティーカーの先導が外れてレースが始まったのです。

すぐにまた霧が濃くなってきていたので 2 周ほどでまたセーフティーカーになるのは明らかでした。

しかしここで上のクラスの GT3 車両に当てられたとの無線が・・・。

100R コーナーで普通にイン側を走行中、前のマシンを抜こうとアウトにいた GT3 のマシンが抜けないとみていきなり進路変更し、インに切り込んできたのです。

イン側にいた 39 号車を完全に見ていなかったのが、切り込んだ瞬間インサイドにいた 39 号車にヒットし向こうはスピン、うちは右フロントの足回りが折れてしまい、これで戦線離脱を余儀なくされました。

何とかピットへ戻ってこられたので、すぐに応急の対処をするも 3 ラップ遅れで今度は自分のドライブでコースへ。

このときは再びセーフティーカーランです。

マシンはといえば、足回りは直したもののアライメントは狂っていますし右フロントのタイヤもここだけ古い山の無いものへと交換となってしまいましたので、バランスは悪くなっていました。

残り 1 時間を切ったところで霧が晴れてきて、ここからはセーフティーカーも抜けて普通のレースへと戻ります。

自分としてはこのサーキットの雨も初めてですしマシンの様子も確認しながらでしたので、最初の数ラップは様子を見ながらペースを上げていきます。

しかし予想以上に良いペースで走ることが出来て、ペースはトップと遜色ないものでした。

自分としては現状勝負権を失ってしまいましたので、とにかく速さを見せられるようプッシュしました。

同じクラスのマシンも何台か抜きましたが修復での 3 ラップ遅れが響き、そのままクラス 8 位でレースを終えました。

決勝結果：クラス 8 位 (38Laps)

39 号車ベストタイム：2'11.140

ST-3 クラスファーストテストラップ：2'09.770



反省

今回初めてのコースで少し不安もありましたが、セッションごとにしっかりと修正して対応出来ていましたので、自分にも自信になりました。

やはり限られた少ない時間の中で順応していかなければなりませんので、しっかりと集中出来て自己分析出来ていたと思います。

ただ自分の中では中古タイヤで状態が良くないとはいえ、Cドライバー予選のタイムがもうちょっと速いものが欲しかったなどは感じます。

決勝では正にドライバー交代時の腰ベルトを付ける作業の遅さが反省点です。どうしても不器用な自分は時間がかかってしまうことも多いので、また更に練習しなければと実感しております。

しかしながら今回のウェット路面では手負いのマシンでありながら速いペースで走れたことは良かったと思います。

マシンの挙動を確認し、コースの水の状態を観察しながらしっかりとプッシュ出来ていたので、その感じ取れる余裕がしっかりとあったことが今回良かった要因の一つだと感じます。



最後に

今回初めてのオートポリスでのレース、そして最終戦ということで気合いも入っていましたしチーム一丸となって優勝を狙っていました。決勝では作戦も成功しトップになっていたからこそ、本当に悔しい結果となってしまいました。

しかしながら、今年はこの IS というマシンを開発していくにあたり、自分にとっても非常に勉強になった 1 年となりました。

毎レースみんなでミーティングし、試行錯誤しながら鈴鹿のレース辺りからやっとなんて良くなってきた感じです。

自分としても前回の鈴鹿、そして今回のオートポリスでは内容の良いものとなりました。

この経験を更なる飛躍に繋げていきたいと思えます。

今年もたくさんのご支援ご声援、本当に有難うございました。残念ながら今季はシリーズランキングもチャンピオン争いとは程遠くなってしまう、申し訳ありません。

来年の活動はまだ現時点では決まっておりませんが、更なる飛躍の為にもしっかりと活動していきたいと思えます。

どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2013 年 11 月 13 日

東 徹次郎